



命を育む・ネイチャーフィールド

# 伊豆沼・内沼

ラムサール条約登録湿地

## 伊豆沼・内沼

伊豆沼・内沼は、宮城県北部に位置し、面積は491haで沼の東に登米市、西に栗原市にまたがっています。

渡り鳥の飛来地として知られ原生の自然をとどめる沼としても国際的に高い評価を得ています。

飛来する鳥類はハクチョウとガンが代表的であり、マガンは日本に飛来する鳥の90%が渡ってきます。他にもこれまで確認された鳥類は235種におよび、これは日本での確認種の4割を超える多さです。

沼の水深は一番深いところでも1.6mと遠浅な地形のため、水辺には白鳥が好んで食べるマコモをはじめとする浅瀬を好むたくさんの植物が生育しています。

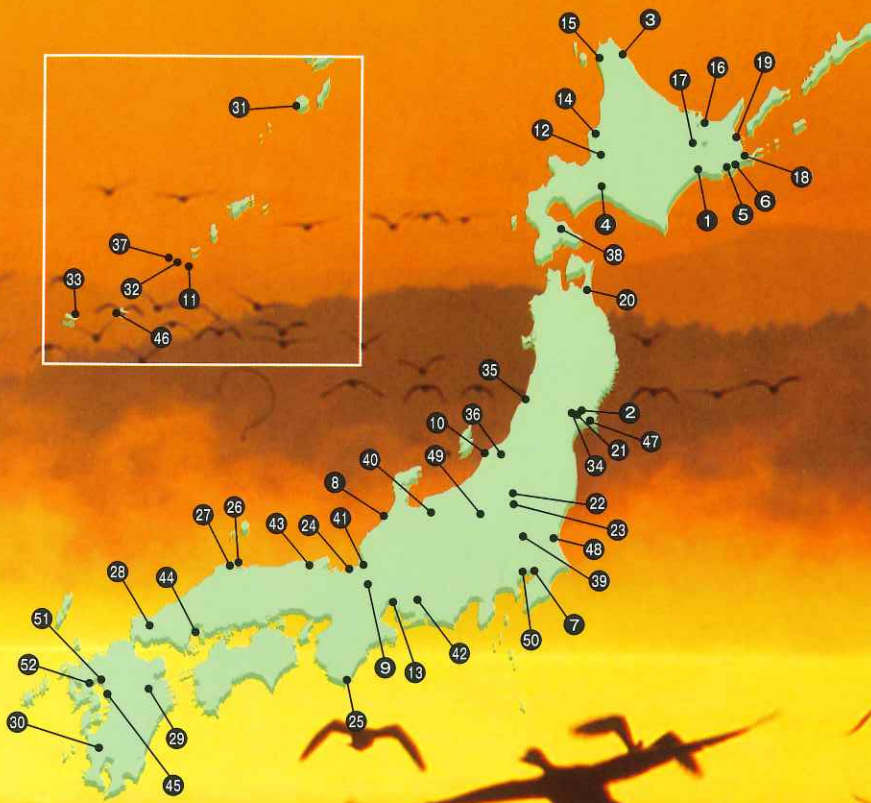
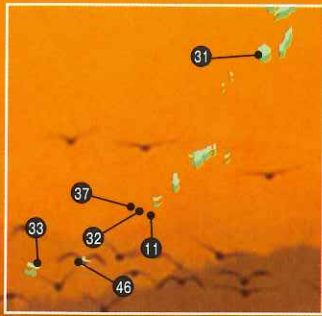
魚類はコイ科を中心に40種が確認されています。県内の他の淡水湖沼に比べると魚類数が大変豊富です。昆虫類も多く特にトンボ類が豊富です。

昭和60年に国内では北海道の釧路湿原に続いて2番目に【ラムサール条約の登録湿地】に指定されました。これにより今後も貴重な自然環境の保全を約束された伊豆沼・内沼はまさに水鳥や生き物にとっての「聖域(サンクチュアリ)」なのです。

### ■地域指定の状況

- ・1966年(昭和41年)県設鳥獣保護区に指定(560ha)
- ・1967年(昭和42年)文化財保護法による天然記念物に指定
- ・1973年(昭和48年)県自然環境保全地域に指定(559ha)
- ・1982年(昭和57年)国設鳥獣保護区に指定替え(1,455ha)
- ・1985年(昭和60年)ラムサール条約の登録地に指定

# 命を育む美しき



### ■ラムサール条約国内登録湿地

1	釧路湿原	北海道釧路市・釧路町・標茶町・鶴居村
2	伊豆沼・内沼	宮城県栗原市・登米市
3	クツチャロ湖	北海道浜頓別町
4	ウトナイ湖	北海道苫小牧市
5	厚岸湖・別寒辺牛湿原	北海道厚岸町
6	霧多市湿原	北海道浜中町
7	谷津干潟	千葉県習志野市
8	片野鴨池	石川県加賀市
9	琵琶湖	滋賀県大津市他10市
10	佐潟	新潟県新潟市
11	漫湖	沖縄県那覇市・豊見城市
12	宮島沼	北海道美唄市
13	藤前干潟	愛知県名古屋市・飛島村
14	雨竜沼湿原	北海道雨竜町
15	サロベツ原野	北海道豊富町・幌延町
16	瀧沸湖	北海道網走市・小清水町
17	阿寒湖	北海道釧路市
18	風蓮湖・春国岱	北海道根室市・別海町
19	野付半島・野付湾	北海道別海町・標津町
20	仏沼	青森県三沢市
21	蕪栗沼・周辺水田	宮城県大崎市・栗原市・登米市
22	尾瀬	福島県楢枝村・群馬県片品村・新潟県島沼市
23	奥日光の湿原	栃木県日光市
24	三方五湖	福井県若狭町・美浜町
25	串本沿岸海域	和歌山県串本町
26	中海	鳥取県米子市・境港市・島根県松江市・安来市
27	穴道湖	島根県松江市・出雲市
28	秋吉台地下水系	山口県美祿市
29	くまがたつ・ダケ尾湿原	大分県竹田市・九重町
30	蘭牟田池	鹿児島県薩摩川内市
31	屋久島永田浜	鹿児島県屋久島町
32	慶良間諸島海域	沖縄県渡嘉敷村・座間味村
33	名蔵アンバル	沖縄県石垣市
34	化女沼	宮城県大崎市
35	大山上池・下池	山形県鶴岡市
36	瓢湖	新潟県阿賀野市
37	久米島の溪流・湿地	沖縄県久米島町
38	大沼	北海道七飯町
39	渡良瀬遊水地	茨城県古河市・栃木県栃木市・小山市 野木町・群馬県板倉町・埼玉県加須市
41	立山弥陀ヶ原・大日平	富山県立山町
42	中池見湿地	福井県敦賀市
42	東海丘陵湧水湿地群	愛知県豊田市
43	内山川下流域・周辺水田	兵庫県豊岡市
44	宮島	広島県廿日市市
45	荒尾干潟	熊本県荒尾市
46	与那覇湾	沖縄県宮古島市
47	志津川湾	宮城県南三陸町
48	涸沼	茨城県鉾田市・東茨城郡茨城町・大洗町
49	芳ヶ原湿地群	群馬県吾妻郡中之条町
50	葛西海浜公園	東京都江戸川区
51	東よか干潟	佐賀県佐賀市東与賀町
52	備前鹿島干潟	佐賀県鹿島市常広

### ■ラムサール条約

正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、1971年2月にイランのラムサールで採決されたことから、通称「ラムサール条約」と呼ばれています。

この条約は、湿地に生息・生育する動植物、特に国境を越えて移動する水鳥を中心に、国際的に保護・保全を目的とし、条約を結んだ国は人間と湿地が共生し、生態系をこわさず持続的に利用していく「ワイズ・ユース」（賢明な利用）の精神に基づき湿地の保全に努めています。

# 楽園

# 伊豆沼・内沼

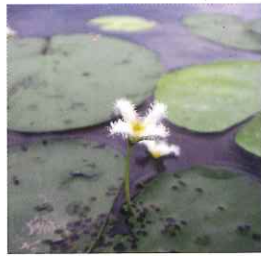


# 水生植物

沼の水深が一番深いところでも1.6mと遠浅なため、水辺にはヨシをはじめとする浅瀬を好むたくさんの植物が成長しています。特にマコモというイネ科の植物はハクチョウが好んで食べます。これらの豊富な植物は、産卵場所として、食物として、魚たちの隠れ家として沼の生き物たちを支えています。



ハス



ガガブタ



アサザ



ミズアオイ



# 昆虫

昆虫も多く生息しており、とりわけトンボ類が豊富です。特にイトトンボ類が多く、オオセスジイトトンボなど貴重な種も見られます。



ウチワヤンマ(サナエトンボ科) ■体長7cm



オオセスジイトトンボ(イトトンボ科) ■体長4cm



チョウトンボ(トンボ科) ■体長約5cm



ノシメトンボ(トンボ科) ■体長6cm

生き物たちの大きさの目安にしてお!



## 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン

伊豆沼・内沼では、毎年クリーンキャンペーン（ゴミ拾い）を行っています。地元の小・中学生や企業、団体のみなさまにご協力いただきながら、沼の自然景観の保全に努めています。



ヨシ原



ヒツジグサ



マコモ



## 魚類

魚類はコイ科を中心に40種の魚がすんでおり、県内の他の湖沼に比べ魚類数が大変豊富です。



ゼニタナゴ(コイ科)  
 ■全長7~8cm



ギンブナ(コイ科)  
 ■全長15~25cm



トウヨシノボリ(ハゼ科)  
 ■全長2~3cm



ヌカエビ(ヌカエビ科)  
 ■全長2~3cm



# 鳥

これまで伊豆沼・内沼周辺で確認された鳥類は235種。これは日本全体で確認された種の約4割にもなります。とくにガン類が多く、マガンは、日本に渡ってくる総数の約9割が、この沼で越冬します。カリガネ、オオヒシクイのほか、希少なハクガン、シジュウカラガンなども見ることができます。



マガンの朝の飛び立ち

- 冬 冬に見られる鳥
- 夏 夏に見られる鳥
- 年 一年中見られる鳥
- 迷 迷い込んだ鳥



オオハクチョウ ■全長150cm 冬



コハクチョウ(左) 冬 アメリカコハクチョウ(右) 迷  
■全長120cm ■全長120cm



オオヒシクイ 冬  
■全長90cm

## 生き物たちの楽園をのぞいてみよう!



マガン成鳥と幼鳥(手前) 冬  
■全長70cm



マガモ 冬  
■全長50cm



ミコアイサ 冬  
■全長35cm



オジロワシ 冬  
■全長90cm



カイツブリ 夏  
■全長25cm



オオバン 年  
■全長39cm



アオサギ 年  
■全長95cm



オオヨシキリ 夏  
■全長18cm

**シベリアからやってくる渡り鳥**

東シベリア海、シベリア地方、チエルスキーゴ湖、バルホヤルバゴ湖、ベリング海、オホーツク海、オオハクチョウのルート、マガンのルート、クツチャロ湖、宮島沼、ウトナイ湖、八郎潟、日本海、太平洋、日本、**伊豆沼・内沼**

**マガン・オオハクチョウの渡りルート**

マガンやオオハクチョウたちは、遠く極東ロシアからやって来ます。夏はこの地域を繁殖地として過ごし、子を育て、9月ごろになると越冬地である伊豆沼に向かって渡ってきます。ロシアの冬はあまりにも厳しく、食物が取れないからです。鳥たちは途中、休息をとりながら伊豆沼・内沼に向かいます。この沼で冬を越し、水温む3月ごろからまた故郷を目指して北へ帰っていくのです。

# 楽しみながら沼の自然を学ぶ、サンクチュアリセンター

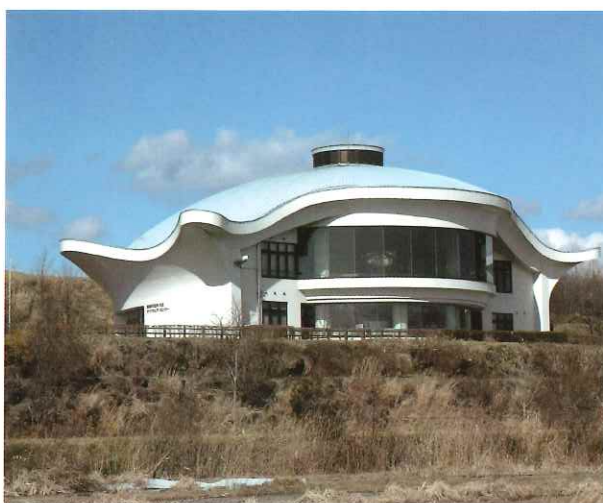
## 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター（鳥館）

伊豆沼の北岸に位置する宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターは、ハクチョウが羽を広げた形を図案化したデザインで、沼に飛来する野鳥の標本などを展示しています。

このセンターには、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団があり、財団では、沼の水質浄化や浅底化防止、生物多様性の復元などの保全活動や研究などをすすめています。

中でも、マコモの植栽、ヨシの刈り取り、オオクチバスの駆除には力を入れています。

また、自然観察会も行われ、水生生物観察、ガンの飛び立ち観察会、冬のバードウォッチングなど季節に応じたさまざまなイベントを行っています。



宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター

### 伊豆沼・内沼のいきもの

床面に直径約16mの伊豆沼・内沼周辺の航空写真を配置したほか、展示棚や伊豆沼・内沼テーブルでは様々な仕掛けで、沼にくらす生きものについて小さなお子さんでも楽しく学ぶことができます。



1階展示 伊豆沼・内沼のいきもの



2階 ビューラウンジ

### ビューラウンジ

椅子に座って、いろいろな高さの望遠鏡で野鳥をゆっくり観察できます。

また、ライブカメラに映し出された映像を見ながら研究員の解説を聞くこともできます。

### 伊豆沼・内沼の現在と未来

伊豆沼・内沼の歴史や人と自然とのかかわり、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団の最新の研究成果などを分かりやすく学ぶことができます。



2階展示 伊豆沼・内沼の現在と未来



## 伊豆沼・内沼の自然を守るために！

ラムサール条約に登録されている私たちの伊豆沼・内沼の美しい自然は、大切な「宝物」です。

世界中の国々に胸をはって誇れるすくれた宝物として、次代の子供たちに引き継いで行くため、伊豆沼・内沼自然保護基金を設けています。これらで、この基金には、県や市町村をはじめ各種団体並びに多くの人々のご協力をいただいております。財団では、基金をもとに、次のような仕事を積極的に進めています。

- 沼の環境をまもる調査や研究・まわりの環境をととのえる仕事
  - 動物や植物をまもり育て、自然をまもることの大切さを知ってもらう仕事
- これらの仕事を行うためには、より多くの自然保護基金が必要です。皆さんの暖かいご理解とご協力をお願いします。

フイールドマナーを守ろう **生き物に優しさを。持って帰ろう思い出とゴミ！**

公益財団法人 **宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団**  
 〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2  
 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター内)  
 TEL.0228-33-2216 FAX.0228-33-2217  
 E-mail izunuma@circus.ocn.ne.jp

